

経営比較分析表

千葉県 長門川水道企業団

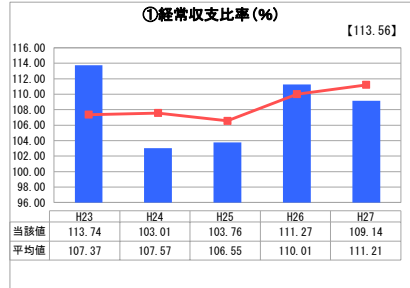
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	77.26	16.47	3,996

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,214	36.50	526.41

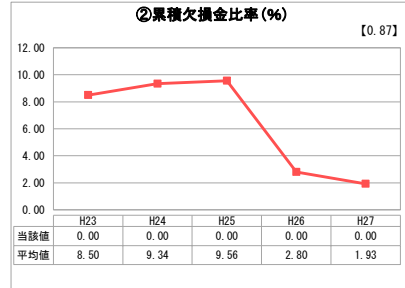
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

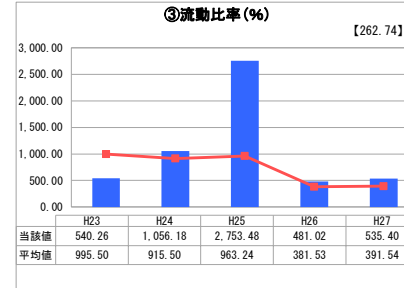
1. 経営の健全性・効率性



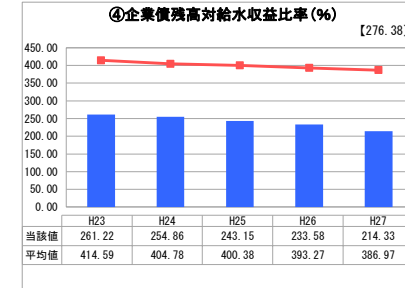
「経常損益」



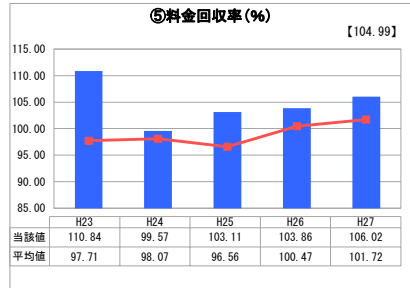
「累積欠損」



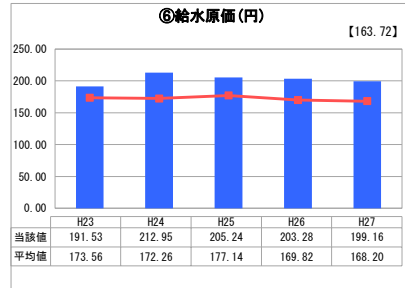
「支払能力」



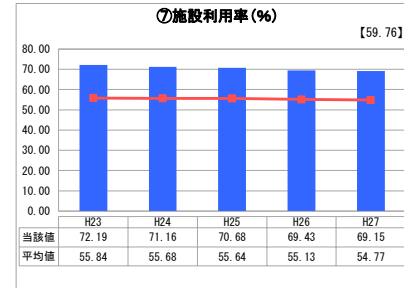
「債務残高」



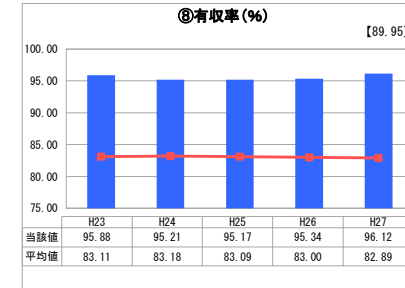
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

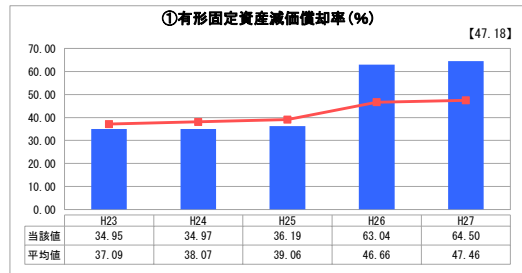


「施設の効率性」

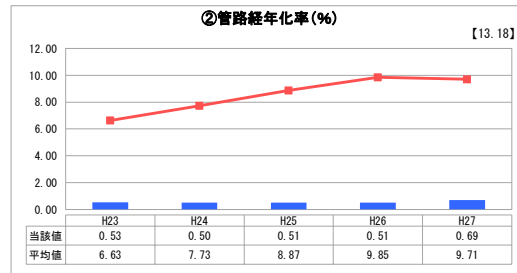


「供給した配水量の効率性」

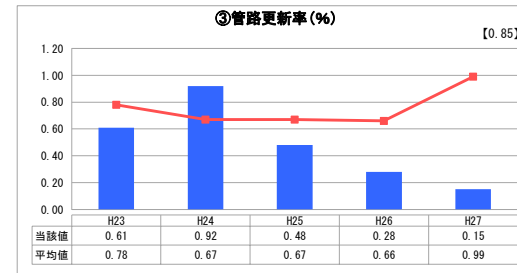
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超え黒字を維持しております。② 流動比率は類似団体平均値で推移しております。③ 流動比率は類似団体平均値で推移しております。現在のところ資金現金は微増となっております。④ 企業債残高は、類似団体よりも低い状況ですが、これからの施設等の老朽化による更新事業が増えること、上昇することが想定されます。⑤ 料金回収率は100%を超え、料金収入で費用を賄っています。⑥ 給水原価が類似団体と比較して、高めであります。表流水と受水で構成される水源のうち、受水費が高いことによるものです。⑦ 施設利用率は、給水人口の減少や節水器具等の普及により配水量が減少したため減少傾向にあります。⑧ 有収率は、類似団体より高い水準で推移しています。高い有収率を維持するため、漏水の多い地区の配水管の布設管を実施しており、また、漏水の通報等に対して速やかに修理を無駄な水発生させないようにしています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、老朽化度合いを示す有形固定資産減価償却率は、平成25年度までは類似団体平均とほぼ同じ35%前後でしたが、会計制度改正によるみなし償却(補助金等で取得した資産について補助金部分の償却を行わない制度)廃止に伴い、平成26年度63%、平成27年度64%と類似団体平均より非常に高くなっており、これは、みなし償却を行なった資産が老朽化している傾向が高いことを示しています。② 管路経年化率は、類似団体平均より少ない状況ですが、これから徐々に上がっていくことから計画的な配水管の更新が必要になります。③ 管路更新率は年度によって差がありますが、更新の優先度を決めて行っており類似団体平均より低い傾向です。

全体総括

全体的に経営の健全性、効率性については類似団体と比較してほぼ良好ですが、これから施設の老朽化、耐震化に対応するため、平成29、30年度で財政とのバランスを考慮し優先度、重要度、ダウンサイジング等に応じた更新計画を策定し安定給水に努めていきます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。